

ディベートについて学ぼう

■ディベートとは

ある特定のテーマの是非について、
2 グループの話し手が、
賛成・反対の立場に別れて、
第三者を説得する形で議論を行うこと。

例)「日本救急車の利用を有料化すべきである。是か非か。」

聞き手に対し、賛成派はそれによっていかに素晴らしいことが起こるのかを訴え、
逆に反対はそれによっていかに恐ろしい問題がおこるのかを訴える。

※実社会における例

- ・裁判での検察側、弁護側の応酬
- ・アメリカ大統領における候補者の公開討論 など

①論題については是非を議論する。

②肯定側・否定側の2つにわかれて議論する。

- ・自分の個人的な意見ではない。
- ・どちら側になっても対応できるように準備し、客観的な視点からテーマに取り組む。

③一定のルールに従う。

- ・発言順序と発言時間が決まっている。
- ・誰かが話している時、他者が発言することはできない。

④第三者（審判者）を説得する。

- ・ディベートの目的は、議論を通じて「第三者であるジャッジ（審判者）を説得すること」。「対戦相手を言い負かす」ゲームではない。

⑤理由、筋道をつけて主張する。

- ・ジャッジ（審判者）の説得が目的であるので、きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を正確に相手に伝え、納得してもらうことが求められる。
- ・そのため論文や文献を調べ、専門家の発言を引用するのも有効。
(調べた情報を羅列するのではなく、自分でその情報を組み立てて、いかに説得力をもたせるか考えるようにしよう)

※チームを組んで試合をする場合には、互いに意思疎通をはかり、主張に一貫性を持たせることも大切な要素となる。

■ディベートの4ステージ

○分×肯・否 立論 議論の立ち上げ	○分 相互討論 質疑応答	○分×否・肯 最終弁論 吟味・検証	○分 結論 比較・判定
--------------------------------	---------------------------	--------------------------------	--------------------------

■ディベート学習で身につく力

聴く力

- ・相手の話を的確に聞く力
- ・相手の話の要点を把握する力

考える力

- ・必要な情報を的確に選び出す力（調べる力）
- ・さまざまな角度から物事を考える力（多角的な思考力／視点移動）
- ・筋道だってものごとを考える力（段取りする力／論理的思考力）

表現する力

- ・表現・コミュニケーション力
- ・議論における寛容でフェアなマナー

学びの構え

- ・社会に対する興味関心、好奇心

■ディベートを体験してみよう

論題：「日本のペットは犬よりも猫を飼うべきである。是か非か。」

メリット	デメリット